

●●●●●●●●●● 安全装備品と消防活動 ●●●●●●●●●●

大分県由布市総務部 防災安全課

1 はじめに

由布市は、大分県のほぼ中央に位置し、北は宇佐市と別府市、南は竹田市、東は大分市、西は玖珠郡（玖珠町と九重町）に接し、東西24.7km、南北23.4kmに渡り、面積は319.16km²です。北部から南西部にかけては豊後富士とも呼ばれている由布岳の麓に湯布院盆地が形成され、この由布岳や黒岳など1,000m級の山々を源とする中小の河川が大分川を形成して東西へ流れています。中央部から東部にかけては、山麓地帯と大分川に沿った河岸段丘が広がっています。

気候は、標高が高く、冬には氷点下になることも多い湯布院盆地などの地域と、標高が低く雨が少ない温暖な中東部とに二分されます。

人口は、35,386人で、14歳以下が4,667人（13.2%）、65歳以上が9,435人（26.7%）と少子高齢化が進んでいます。（国勢調査 平成17年10月1日現在）

主幹産業は農林業で、稲作を中心に野菜や花き、果実類の栽培や畜産が盛んですが農家数、農家人口ともに減少しています。

工業については、企業誘致の効果もあり、製造品出荷額は増加傾向にあります。

観光業は、温泉や豊かな自然に恵まれており、保養温泉地としての湯布院地域を中心に多くの観光客が訪れています。

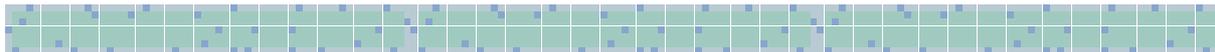
2 消防団の組織概要

団員数は755人で、組織体制は消防団長1名、副団長3名、分団長19名（方面隊副隊長3名を含む）、副分団長16名、部長65名、班長260名、団員391名となっており、分団は市内を3区域（3方面隊）に分けて管轄する16分団65部で構成されています。これに消防ポンプ自動車5台、消防ポンプ付き積載車65台、小型動力ポンプ22台を配備しています。

また、当市は大分市、別府市に隣接していることから両市に通勤している消防団員も多く、昼間の火災等の発生時における出動が難しいところもあり、平成21年度に市役所の職員を対象とした「機能別消防団員制度」を導入しました。団員数は29名で、うち女性団員が7名となっており、消防団の後方支援を主な活動としています。今後は訓練を重ね、任務がより良く遂行できるように期待をしています。

3 平成19年8月台風5号の災害体験から

平成19年8月2日、台風5号が大分県を直撃し当市の湯布院地域では17時から21時までの5時間に304mmの豪雨を記録しました。この集中豪雨によって20時頃に由布岳の山腹崩壊が起こり、土石流が倒木を押し流して瞬時に河川をせき止め、交差する県道が流路と化しました。これによって、県道がえぐられ流出した土石流に



台風の後

よって周辺の家屋等に被害をもたらしました。その内容は、家屋の半壊1棟、床上浸水110棟、床下浸水105棟、土砂流入22棟、水道管破損等であり、このような大きな災害下において人的被害が1件もなかったことがせめてもの救いでした。

被災後は復旧のために、河川の埋没土砂15,000m³の除去、県道の応急仮復旧、閉鎖した中小水路の土砂の除去及び全域にわたる薬剤散布を行うとともに、自治会や消防団を中心として道路や水路、公園などの後片付けをはじめ、高齢・独居家庭の支援や清掃奉仕など、地域をあげての取り組みが積極的に展開され、住民の絆の深さを再認識しました。

4 安全装備品整備等助成事業の活用

当市は山間部に位置している地域が多く、前述のような大雨や河川の氾濫による土砂災害の



土のう積み訓練

発生が予想され、消防団には火災時の対応のほかにこうした風水害等への迅速な対応が常に求められていることから、毎年、各方面隊において市民参加の消火訓練、土のう積み訓練や避難訓練といった様々な災害を想定した防災訓練を実施しています。

このようなことから、災害現場における消防団員の安全を確保するため、全ての消防団員に安全帽と手袋の配備をすることとしました。そのため、平成20年度から平成21年度にかけて、消防基金が実施している「消防団員安全装備品等整備助成事業」を活用し、消防団の安全装備品の充実を図りました。消防団員安全装備品整備等助成事業を活用したことにより消防団員の安全装備品をより効率的に整備することができ

ました。この安全装備品の整備がなされたことによって、火災時における消火・救助活動や復旧活動等に対する消防団員の安全の向上と災害現場での作業の効率化が図られました。

今後とも消防団員の安全装備品の充実を図るとともに、研修事業を含めた公務災害防止事業を計画的に行い、消防団員の公務災害防止に努めたいと思います。



安全装備品（ヘルメット）



安全装備品（手袋）